

マテリアリティ（重要課題）の取り組みと進捗

当グループでは、中長期的な企業価値の向上の観点から、サステナビリティに対する取り組みを重要な経営課題と認識し、2022年に経営全体のマテリアリティ（重要課題）として、6つのカテゴリ・19の具体的課題を取りまとめました。2023年にはサステナビリティ推進タスクフォースのもと、各カテゴリごとに目標およびKPIを設定しました。今後も、中長期的な企業価値向上を目指して、各取り組みを推進していきます。

カテゴリ	カテゴリリーダー	当グループが取り組むべき重要な社会・環境課題	課題選定理由	主担当	施策	実績			目標	
						(参考)2024年度実績 KPI	2025年度 実績 KPI	2025年度の取り組み（実績）	2026年度 目標	2030年度 目標
 Better For You 食を通じた 健やかな ライフスタイル への貢献	食品事業 本部長／ 海外事業 本部長	安全・安心な食の提供	安全・安心な食を提供することは、食品メーカーとして最も重要な責務の一つであると考えています。	品質保証部長	第三者認証の取得推進・維持 (FSSC22000、JFS、AIBなど) ※亀田製菓グループ	亀田製菓グループ 会社取得率 100%	亀田製菓グループ 会社取得率 100%	・FSSC22000規格移行対応 ・グループ会社の認証取得・維持支援 ・食品安全確保と継続的改善のための子会社内部監査	亀田製菓グループ 会社取得率 100%維持	亀田製菓グループ 会社取得率 100%維持
		「喜び・潤い」「健康」「おいしさ」「感動」を与える食の提供	食を通じ生活に「喜び・潤い」を届けたいという想いは当グループの創業の心であり、「健康」「おいしさ」「感動」を与える食の提供は、当グループの存在意義「Better For You」につながると考えています。	海外事業 本部長	グローバル事業拡大による価値創出 ^{*1} TH FOODS, INC. の完全子会社化を通じ、北米事業を起点とした海外事業拡大 ※亀田製菓・海外連結子会社	海外事業売上高比率 ※連結売上高比率 16.7%	海外事業売上高比率 ※連結売上高比率 35.8%	・北米事業（TH FOODS, INC.）の業績拡大 ・ベトナム事業拡大	海外事業売上高比率 ※連結売上高比率 35.7%	海外事業売上高比率 ※連結売上高比率 43.0%
				マーケティング 戦略部長		ミライベイカ 上市商品数 2SKU ・春夏シーズン 0SKU ・秋冬シーズン 2SKU	ミライベイカ 上市商品数 9SKU ・春夏シーズン 3SKU ・秋冬シーズン 6SKU	・ミライベイカの定義見直し お米の知見・米菓技術の応用を活かした「独自価値」があり、従来にとらわれない「新ブランド」で「新オケーション」を獲得し市場創造するベイカ ・2025年度 9SKU（売上高3.3億円） ・2025年度 春・夏 3SKU発売 ・2025年度 秋・冬 6SKU発売	ミライベイカ 上市商品数 7SKU 以上 （詳細） ・0.5食テーマ商品 3SKU ・ライスナック 4SKU	ミライベイカ 上市商品数 4SKU 以上 （KG） ・売上高20億円 達成
		お米をベースとした食文化の発展	お米を事業の起点とする当グループにとって、米菜に限らず、お米をベースとした食文化の発展に貢献することでプレゼンスの向上および企業価値の創出につながると考えています。	食品事業 本部長	食品事業の海外売上高比率の拡大	海外売上高比率 1.6%	海外売上高比率 3.1%	・リニューアル商品の減塩化 ・減塩商品拡充の取り組み ・厚生労働省「健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチフ」への取り組み	海外売上高比率 3%	海外売上高比率 15%削減
		食にまつわる多様な価値観への対応	アレルギー・宗教・世界中の多様な食文化などへの対応により、当グループが目指す食のバリアフリー化を実現することができると考えています。	食品事業 本部長	食品事業のハラル・コーシャ対応強化	食品事業商品（一部商品）のハラル認証取得	食品事業商品（一部商品）のハラル認証取得	・長期保存食のハラル認証取得 ・プラントベースフードのハラル認証取得 ・乳酸菌はハラル・コーシャ認証取得済※輸出向け	・輸出用植物性乳酸菌のハラル・コーシャ認証取得 ・プラントベースフードのハラル認証取得	・米粉パンのハラル認証取得
 環境に配慮した ものづくり	生産 本部長	事業活動による環境負荷低減	事業活動により発生する地球環境への負荷をできる限り抑制し、脱炭素・循環型社会の構築に貢献することは企業として優先的に取り組むべき重要課題と認識しています。	生産本部長	温室効果ガス総排出量 (Scope1・2) の削減 ※亀田製菓・アジカル	2017年度比 38.3%削減	2017年度比 49.3%削減	・経済産業省資源エネルギー庁「事業者クラス分け評価制度」（2025年度提出分）で最高ランクの優良事業者（5クラス）取得 ・品種切り替えに伴うエネルギーロス削減 ・各工場の省エネルギー活動の継続 ・GRIC 屋根太陽光発電システム稼働 ・監督職、担当者を対象とした省エネルギー教育 ・省エネルギー部品への入れ替え ・エネルギー見える化推進	2017年度比 20%削減	2017年度比 40%削減
		環境資源の保全	持続的に事業活動を行っていくためには、水などの環境資源を効率的に利用し、大気汚染を防止などの保全活動が必要不可欠であると考えています。	生産本部長	水使用量の削減 ※亀田製菓・国内連結子会社	2017年度比 9.4%削減	2017年度比 15.9%削減	・生産重量減 ・清掃を伴う製造ラインの品種切り替え回数の削減継続 ・生産体制の見直し ・節水部品への随時入れ替え ・生産現場での節水活動継続 ・老朽化に伴う埋設配管の補修	2017年度比 6%削減	2017年度比 10%削減
		フードロスの削減	食を扱う企業として、自然の恵みや生産者への感謝を忘れず、サプライチェーン上における原材料および食品の廃棄を極力減らすことが事業・環境の両面から極めて重要であると認識しています。	米菓スナック 開発部長	賞味期限延長への取り組み ※亀田製菓	重点ブランドの 4SKU の賞味期限延長	重点ブランドの 6SKU の賞味期限延長	・『亀田の柿の種』ブランドの「年月」表示化に合わせた賞味期限延長 ・180日→210日に延長 ・2025年7月1日出荷分より開始	賞味期限延長 商品拡大	賞味期限延長 商品拡大
		脱プラスチック社会への適応	消費財を扱うメーカーとして、プラスチック使用量の削減は優先的に取り組むべき重要課題と認識しています。	米菓スナック 開発部長 マーケティング 戦略部長	プラスチック使用量の削減 ECOパッケージ化推進など ※亀田製菓・国内連結子会社	2017年度比 13.0%削減	2017年度比 15.3%削減	・生産重量減によりプラスチック使用量減少 ・包材サイズの短縮による使用量削減 ・包装ロス削減活動 ・既存商品のエコパッケージ化※テスト販売 ・包材の薄肉化による保存試験 ・食パン包装緩衝材削減	2017年度比 15%削減	2017年度比 30%削減
 持続可能な 調達活動	購買部長	調達先の人権尊重	当グループの事業活動に関わるすべての人の人権を尊重することは、必ず果たすべき社会的責任であると考えています。	購買部長	RSPO認証パーム油比率 ※亀田製菓	13.4%	11.6%	・亀田製菓単体での使用増加を検討も、パーム油含む原材料のコスト増により、RSPO 認証パーム油使用 11.6%	18% ^{*3}	100%
		安定調達の強化・実現	地政学リスクの顕在化や気候変動などにより調達リスクが高まる中、リスクを抑制しお客様に安全・安心な商品をお届けすることがメーカーとしての使命であると考えています。	購買部長	主要原材料の分散調達シナリオの策定 ※亀田製菓	調達先・代替品検証	調達先・代替品検証	・調達先候補視察検証 ・リスク管理委員会による分散調達品および代替品による商品力検証	調達先・代替品の確定と生産検証	調達先・代替品の確定・実行
		将来的な食糧不足への対応	気候変動や人口動態の変化などによる農作物の収量の変化およびプロテインクライシスへの対応は、持続的に事業活動を行ううえで必要不可欠であると考えています。	食品事業 本部長	タンパク質クライシスへの対応、プラントベースフードの拡大	プラントベースフード 売上高 0.7億円	プラントベースフード 売上高 0.8億円	・新商品発売 ・新商品『サクサクたんぱく』『ごはんでたんぱく』	プラントベース フード売上高 4億円	プラントベース フード売上高 18億円
 人的資本経営	人事総務 本部長	従業員の心と体の健康経営	従業員が心身ともに健康であることで、従業員一人ひとりのポテンシャルが最大限に引き出され、当グループの中長期的な企業価値向上につながると考えています。	人事総務 本部長	セルフケア・ラインケアの充実 内部通報・相談窓口設置 安全で快適な職場 ※亀田製菓	定期健康診断 100.0% ・内部通報、相談窓口の社内周知・浸透 ・外部窓口「もしもしほっと」相談件数 3件 ・労働安全衛生 ・安全衛生委員会による職場巡視活動 ・労働災害強度率 0.12	定期健康診断 100.0% ・内部通報、相談窓口の社内周知・浸透 ・外部窓口「もしもしほっと」相談件数 2件 ・労働安全衛生 ・安全衛生委員会による職場巡視活動 ・労働災害強度率 0.00	定期健康診断予約一元管理システムの活用により、受診率100%継続 ・精密検査受診率向上への取り組み ・ストレスチェック集団分析の実施 ・管理職向けラインケア研修実施 ・健康経営アンケートデザイン施策実行 ・内部通報・相談窓口の周知・浸透によるメンタルヘルスへの取り組み強化 ・安全衛生委員会による職場巡視活動と安全表彰の実施 ・長時間労働の是正活動 ・安全セミナーの定期的な開催	定期健康診断 100.0% ・内部通報、相談窓口の社内周知・浸透 ・労働安全衛生 ・安全衛生委員会による職場巡視活動 ・労働災害強度率 0.05未満 ^{*4}	定期健康診断 100.0% ・内部通報、相談窓口の社内周知・浸透 ・労働安全衛生 ・安全衛生委員会による職場巡視活動 ・労働災害強度率 0.05未満 ^{*4}
		ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン	さまざまな価値観や考え方、多様な個性を認め合い、公正に評価することが従業員一人ひとりの能力発揮を実現し、強韧かつ競争力のある組織になると考えています。	人事総務 本部長	女性管理職・監督職比率 ※亀田製菓	女性管理職比率 13.6% 女性監督職比率 18.8%	女性管理職比率 14.3% 女性監督職比率 21.2%	・異業種女性交流研修 ・新潟企業異業種交流研修 ・食品メーカー女性合同研修 ・ロールモデル交流会実施 ・ナナメンター制度の対象拡大	女性管理職比率 18.5% ^{*5} 女性監督職比率 24.5% ^{*5}	女性管理職比率 30% 女性監督職比率 30%
		事業基盤を支える人材の育成	事業基盤を強固なものとするため、当グループとして求める人材を育成する仕組み・制度は必要不可欠であり、その整備は重要な経営課題であると認識しています。	人事総務 本部長	人材育成投資の推進 ※亀田製菓	1人当たりの年間平均教育投資額 2021年度比 2.4倍	1人当たりの年間平均教育投資額 2021年度比 2.2倍	・eラーニング教育の継続 ・技術者育成 ・技術学校の継続 ・改善スクール・保全スクール ・グローバル人材育成 ・技術者の英語教育 ・海外派遣プログラム ・入社 4 月目選抜海外派遣研修 ・次世代経営幹部育成 ・DX人材育成研修	1人当たりの年間平均教育投資額 2021年度比 2.4倍以上	1人当たりの年間平均教育投資額 2021年度比 2.4倍以上
 亀田製菓らしいガバナンス	経営企画 部長	コーポレートガバナンスの強化	企業経営のあるべき姿（事業の持続的発展と企業価値の向上を目指すこと）の実現のため、実効的なコーポレートガバナンス体制の構築・強化が必要不可欠であると考えています。	経営企画部長	取締役会の適正な運用を通じた企業価値の向上 第三者機関による定期的な評価を継続 ※亀田製菓	・第三者機関による評価実施と評価結果の課題対応 ・執行体制と役員報酬設計の見直し着手	・第三者機関による評価実施と評価結果の課題対応 ・執行体制と役員報酬設計の見直し	・第三者機関による実効性評価実施 ・2024年度実効性評価を受け、3年に1回のアンケートおよびインタビューを実施 ・2025年12月 取締役会に結果報告 ・2026年2月 取締役会にて改善策報告 ※2026年7月 取締役会にて改善策進捗報告 ・役員報酬設計の見直し ・執行体制と役員報酬設計を見直し、2026年度より運用開始	第三者機関による評価と課題抽出、改善活動ローリング	第三者機関による評価と課題抽出、改善活動ローリング
		リスクマネジメントの徹底	経営の安定化を図るため、経営に重大な影響を及ぼす可能性のあるリスクを抽出し、優先度を決め対策を講じることが必要であると認識しています。	経営企画部長	リスクマップによる見える化と対策の実施 ※亀田製菓・連結子会社	・リスクマップ更新 ・リスク管理委員会 4 回実施 ・危機管理セミナー 2 回実施 ※緊急事態が生じた場合は危機対策本部を設置	・リスクマップ更新 ・リスク管理委員会 4 回実施 ・危機管理セミナー 2 回実施 ※緊急事態が生じた場合は危機対策本部を設置	・リスクマップの見直し ・人権問題リスクについて部門別課題抽出 ・原材料調達リスク対応 ・安全・品質に関するリスク対応 ・SNS 等による企業イメージ棄損・風評リスクへの取り組み ・労働災害防止の取り組み ・情報セキュリティ対応	リスクマップによる見える化と社内規程・マニュアルに基づいた対応・見直しの継続	リスクマップによる見える化と社内規程・マニュアルに基づいた対応・見直しの継続
					情報セキュリティの体制強化 ※亀田製菓・連結子会社	業務に重大なインシデントの発生 0件	業務に重大なインシデントの発生 0件	・セキュリティ対策 ・第三者機関による内部セキュリティ調査・診断の実施 ・標的型攻撃メール訓練の実施（亀田製菓・国内子会社対象） ・サイバー攻撃を想定した部門内インシデント対応机上訓練実施 ・生成 AI 利用に関するガイドライン制定 ・インフラ強化 ・セキュリティ監視体制を強化 ・主要拠点ネットワーク増強による安定化を実現	業務に重大なインシデントの発生 0件	業務に重大なインシデントの発生 0件
 地域社会との調和	経営企画 部長	地域雇用の拡大	新湯発の企業として、またグローバルに展開する企業として、地域とともに相互に発展することで信頼感が強まり、好循環が生み出されることが考えられます。	海外事業 本部長	海外拠点の人員拡大 ※海外連結子会社	1,504名 米国：122名 アジア：1,382名	2,023名 米国：633名 アジア：1,390名	・TH FOODS, INC. 完全子会社化に伴う北米拠点の増加 ・アジア拠点はブランド事業を中心とした事業展開に取り組むも微減少	2,000名	2,500名
		地域農業との連携	地域の農業関係者と緊密な連携を図ることで、同産業の発展に貢献するとともに、サプライチェーン・マネジメントや調達リスク低減につながると考えています。	食品事業 本部長	新潟県産米100%の米粉パン商品販売拡充	新潟県産米使用量 286トン	新潟県産米使用量 347トン	・『おこめ食パン』と『おこめ丸パン』の販売拡大 ・米粉パン製造子会社のブランド認知拡大 ・米粉パンの価格改定	新潟県産米使用量 450トン	新潟県産米使用量 950トン
		「楽しい」「おいしい」「健康」食育の提案	食文化の形成や将来の購買層へのアプローチとともに、当グループへの理解が深まることで親近感が醸成されるなど、さまざまな面で当グループの企業価値向上に寄与するものと考えています。	経営企画部長	食を通じたコミュニケーションの推進 出前授業、地域の小学生の工場見学 ※亀田製菓・連結子会社	・食育活動 ・出前授業 ・ものづくり授業、食育 ・ものづくりイベント ・食育活動 ・出前授業 ・ものづくりイベント ・社会科見学 ・校外学習	・食育活動 ・出前授業 ・ものづくりイベント ・食育活動 ・出前授業 ・ものづくりイベント ・社会科見学 ・校外学習	・「亀田製菓グループのファンをつくる会」による保育園・小学校・学童クラブを対象にしたものづくり授業や食育の出前授業を実施 ・近隣の小中高校生の校外学習、工場見学	継続	継続

（注）「中長期成長戦略2030 Update」では財務目標を2027年度・2030年度に見直していますが、マテリアリティ目標については基本シナリオに変更がないことから、2026年度・2030年度の目標区分を継続しています。
※1 TH FOODS, INC. の完全子会社化に伴い、海外事業売上高比率を新規指標として追加。「中長期成長戦略2030 Update -米菓を世界へ、お米を未来へ-」のもと、国内外の米菓事業の成長を一体的に管理。 ※2 ミライベイカの定義を見直し、2026年8月の事業戦略会議にて、「新ブランド」「お米ならではの独自価値」「新オケーション」を備え、市場を創造する商品群へ変更。 ※3 RSPO認証パーム油比率は2026年度目標値を下方修正。 ※4 2025年度の労働災害強度率が0.00となったことから、2026年度および2030年度の目標値に「未満」を追加し修正。 ※5 女性管理職・監督職比率の状況を鑑み2026年度の目標値を下方修正。